

萩 世界遺産を 動画でも たのしもう

HAGI 産業遺産群

Sites of Japan's Meiji Industrial Revolution : Industrial Heritage Sites in Hagi

GUIDE MAP

01



はぎしょうか まち 萩城下町

1600年の関ヶ原の合戦で敗れた毛利輝元により萩城・萩城下町が計画的に建設されました。以後260年間、萩は萩(長州)藩の政治・行政・経済の中心地として栄え、当時の地域社会の姿をあらわしています。江戸時代は士農工商の身分制度が確立されており、萩城下町も武士と町民の暮らす区域は厳格に区別されていました。資産の範囲は①城跡、②旧上級武家地、③旧町人地の3地区です。



①城跡

◆萩城跡(指月公園)
[旧厚狭毛利家萩屋敷長屋と共通券]
観覧料大人220円



②旧上級武家地

◆口羽家住宅
観覧料100円



③旧町人地

◆菊屋家住宅観覧料650円
◆旧宅等観覧料各100円

HAGI 萩 世界遺産 バーチャルアドベンチャー

タブレットやスマートフォンを利用して、萩市に存在した世界遺産の風景を眺めることができます。例えば恵美須ヶ鼻造船所跡では「丙辰丸」や「庚申丸」の姿や造船所の建物の様子が再現されます。恵美須ヶ鼻造船所跡や萩城跡ではタブレットの貸し出しも行っています。



- 公共トイレ
- 多機能トイレ
- 駐車場
- 有料駐車場
- Free Wi-Fi
- 電気自動車用急速充電スポット

萩城下町(城跡)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧町人地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



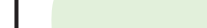
萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



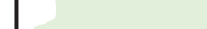
萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



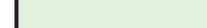
萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



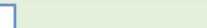
萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)

萩城下町(旧上級武家地)



萩城跡(指月公園)



はぎはんしゃろ 萩反射炉

反射炉とは、鉄製大砲の製造に必要な金属溶解炉です。萩(長州)藩の海防強化の一環として導入が試みられました。萩(長州)藩は、佐賀藩の反射炉のスケッチを入手し、それを基に建設しました。萩反射炉の大きさは、オランダの原書の寸法から約7割程度の規模だったため、試作的に築造されたと考えられています。1856年の一時期に金属の溶解実験が行われました。残っている遺構は煙突にあたる部分で、高さ10.5mの安山岩積み(上方一部レンガ積み)です。萩(長州)藩の試行錯誤を伝えると共に、我が国の産業技術史上、大変貴重な遺跡です。

◆萩市大字椿東4897-7ほか
萩市内中心部から北東へ約5km

02

恵美須ヶ鼻造船所跡

萩反射炉

道の駅「萩しーまーと」

東萩駅
東萩駅観光案内所
松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川

東萩駅

東萩駅観光案内所

松本川



◆萩市大字椿東5159-14ほか 萩反射炉から海側へ約0.7km 大型車通行不可

えびす がはなぞうせんじょあと 恵美須ヶ鼻造船所跡

1853年、幕府は軍備・海防力の強化を目的に大船建造を解禁し、のちに萩(長州)藩にも大船の建造を要請しました。1856年に萩(長州)藩は西洋式帆船の製造を学ばせるため、尾崎小右衛門(おごきこえもん)を伊豆の戸田村(へだむら)に派遣しました。ロシア式の技術を移入し、1856年12月には、萩(長州)藩最初の洋式軍艦「丙辰丸(へいしんまる)」が進水しました。その後、長崎経由でオランダ式の技術を移入し、1860年には2隻目の洋式軍艦「庚申丸(こうしんまる)」が進水しました。丙辰丸建造には大板山たたら鉄が使用されたことが確認されています。2つの異なる造船術が一つの造船所で確認できる唯一の造船所として貴重な遺跡であり、現在も当時の規模のままの防波堤が残っています。

03

しょうか そんじゅく 松下村塾



◆萩市大字椿東1537-1 市内中心部から東へ約1.5km

萩(長州)藩の兵学者 吉田松陰が主宰した私塾です。松陰は、1854年、25歳の時、伊豆下田でアメリカ艦船に乗り込み海外渡航を試みましたが失敗しました。投獄され、のちに実家の杉家(国史跡吉田松陰幽囚ノ旧宅)に謹慎となりました。1856年から門人への指導を開始し、1857年には現存する塾舎に移ります。松陰は欧米の軍事力に危機感を持ち、海防の観点から工学教育の重要性をいち早く提唱し、自力で産業化の実現を図ろうと説きました。塾生からは高杉晋作や、のちに「長州ファイブ」と呼ばれた内の1人である伊藤博文をはじめ日本の近代化、工業化の過程で重要な役割を担った多くの逸材がここで学びました。

04

おおいやま せいてつ いせき 大板山たたら製鉄遺跡



◆萩市大字紫福10257-5ほか(山の口ダム北側) 萩市内中心部から北東へ約23km 道幅が狭いため中・大型車通行不可

砂鉄を原料に、木炭を燃焼させて鉄を作っていた江戸時代のたたら製鉄の跡です。砂鉄と木炭を炉に入れ、轆(ふいご)を用いて行います。この製鉄法は「たたら」といい、日本の伝統的な製鉄方法です。宝暦期(1751~1764年)の8年間、文化・文政期(1812~1822年)、幕末期(1855~1867年)の3回操業していました。原料の砂鉄は島根県から北前船を利用して奈古港に荷揚げされ、荷駄で運ばれていました。大板山のたたら場で作られた鉄は、恵美須ヶ鼻造船所で釘や碇などの部品にも使用されました。

05

